

博士論文要旨

博士論文タイトル〈優柔不断な人の心理特性と意思決定プロセスに関する研究〉

中央大学大学院文学研究科心理学専攻 齋藤聖子

本論文は、優柔不断な人がなぜ決定に時間がかかるのかという問いを明らかにするために、意思決定プロセスモデルを用いて優柔不断特性と決定場面での行動の関連を検討した。第1章では決定を躊躇する要因を挙げ、その要因の1つである決められなさという個人特性があることを示した。その上で日本における決められなさを表す概念である優柔不断が従来の尺度では測定できない可能性を指摘した。さらにこれまでの決められない人の決定場面における行動の検討では優柔不断特性と行動の関連についての検討が不十分であることが示された。そこで、本論文では、(1) 優柔不断とはどのような特性かを明らかにする、(2) 優柔不断を測定するための信頼性と妥当性を持った尺度を作成する、(3) 意思決定のプロセスから優柔不断な人の行動を明らかにするという3つの課題を検討することによって、優柔不断な人がなぜ決定に時間がかかるのかという問いを明らかにすることを目的とした。

第2章では、優柔不断な人と従来の決められない人の相違を検討するために、優柔不断な人のイメージや優柔不断な人が経験したエピソードを収集することで、優柔不断という概念を明らかにすることを目的とし、面接調査を行った。その結果、優柔不断な人のイメージとして、「熟慮」、「不安」、「決められなさ」、「他者に対する行動」の4つが挙げられた。このなかで「他者に対する行動」は既存の決められなさの尺度には含まれない要素であり、日本人を対象とした優柔不断を測定するために重要であることが示された。

第3章では、第2章で示された優柔不断という特性を測定する尺度を作成し、信頼性および妥当性の検討を行うことを目的とした。まず優柔不断尺度の因子構造の検討を行い、「熟慮」、「先延ばし」、「他者参照」、「不安」の4因子構造であることが示した。また信頼性も一定の水準を示すものであった。次に優柔不断尺度の妥当性の検討を行い、既存の尺度との関連を示した。さらに実験的な選択場面における優柔不断尺度得点の関連を検討し、尺度得点が高い群では、課題前半で選択の時間が長くなることを明らかにした。これらの結果から、作成された尺度が優柔不断を測定するための妥当性を有していることを示した。

第4章では、優柔不断という特性が適応的かを明らかにすることを目的とした。優柔不断な人が決定場面で感じる自己効力感およびストレスを検討し、優柔不断な人は決定に対する自己効力感が低く、決定時のストレスも高いことを示した。研究6では、優柔不断な人の衝動性について検討し、不適応な場面での衝動性の高さとは関連がないことを示した。

第5章では、優柔不断な人の意思決定場面での行動を明らかにするために、実験的な選択場面での行動特徴を検討した。結果として優柔不断な人の中でも熟慮が高い人は、決定までにより多くの情報を集めるという行動が見られた。また優柔不断な人の中でも先延ばし

や不安が高い人は、選択肢を見つけて情報を得る情報探索のプロセスを遅らせようとすることが示された。さらに優柔不断な人は選択肢を1つだけ残すという課題のときに、選択肢評価に対して難しいと感じやすいことが明らかとなった。

第5章で得られた優柔不断特性と決定場面での行動の関連から、優柔不断な人の意思決定のプロセスモデルを作成した。このモデルでは優柔不断な人が意思決定のどのプロセスに時間がかかるかを明らかにしようと試みたものである。本論文では意思決定プロセスの「情報探索」と「選択肢評価」に焦点を当てて検討を行った。第5章で得られた知見から、「情報探索」に対して、優柔不断特性の「先延ばし」および「不安」が情報探索行動の遅延に影響した。また「熟慮」は情報探索及び選択肢評価の段階においてより多くの情報を集めるという行動を引き起こした。さらに「選択肢評価」については、選択肢を1つ残すという課題要求によってという制限付きではあるが、優柔不断特性が決定に対する困難さの感じやすさと関連していることを示した。これらの結果から、優柔不断特性の複数の側面が決定場面における行動に様々な影響を与えていることが明らかとなった。

一連の研究から、3つの検討課題についての結論が得られた。(1) 優柔不断はどのような特性かに対しては、他者の意見を尊重するといった社会的な側面を含む複数の側面を持った特性であることが明らかとなった。(2) 信頼性と妥当性を持った優柔不断尺度を作成するという課題に対しては、「熟慮」、「不安」、「決められなさ」、「他者に対する行動」の4つの側面を持つ優柔不断特性を作成し、既存の尺度や決定時間との関連から妥当性を示した。(3) 意思決定のプロセスから優柔不断な人の行動を明らかにするという課題に対しては、先延ばしと不安が情報探索の遅延と、熟慮が情報探索および選択肢評価での情報探索数や決定時間と、優柔不断が選択肢評価での選択の困難さをとそれぞれ関連していることが明らかになった。

本論文を通して、優柔不断の概念について明らかにし、その個人差を測定する信頼性および妥当性のある尺度を開発した。また優柔不断のそれぞれの側面が意思決定のプロセスにおける行動に影響していることを明らかにした。本論文で優柔不断尺度を複数の側面から測定する尺度を作成し、一連の実験において行動と優柔不断特性の関連を検討したことで、優柔不断の中にも様々な特性があり、持っている特性によって決定までに時間がかかる原因が異なる可能性を示すことができた。

本論文は優柔不断な人の特性や選択場面における行動を明らかにしたが、いくつか不十分な点も存在する。第1には、今回焦点をあてたのは日常生活でよく経験する些細な選択であったが、意思決定においては重要度や関心度、これまでの経験の有無といった要因が影響することが予想され、今回得られた結果がすべての意思決定において適用できるかは明らかにされていない。第2には、優柔不断の特徴の1つである他者参照がどのような選択に影響するのかについては未検討である点である。第3としては、実際に決定までの時間を少なくするための方法については本論文では明らかにできていない。これらの点については今後の課題とした。